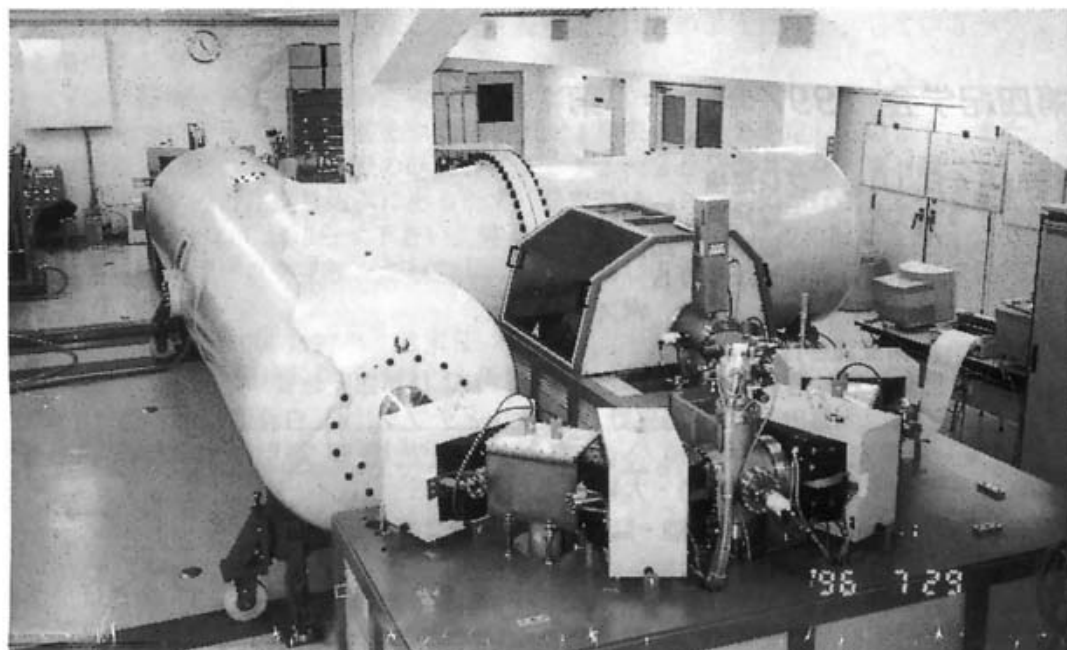


QR Newsletter

第四紀通信

Vol.3 No.6, 1996



名古屋大学年代測定試料研究センターのタンデトロン2号機
(第四紀講演会案内参照)

Vol.3 No.6**November 25, 1996**

第四紀講演会のお知らせ	2	国際研究集会のお知らせ	11
第四紀学会大会第1報	2	研連議事録	13
地球惑星科学合同大会	4	幹事会議事録	13
ホームページの作成について	10	会員消息	14

■ 第四紀学会講演会のお知らせ

下記のように第四紀学会講演会を開催します。今回は名古屋大学年代測定センターの中村俊夫さん（第四紀学会評議員）に、AMS年代測定に関するホットな話題を提供していただけることになりました。多数の会員の皆様が講演会に参加されるようお願いいたします。

記

日時： 1997年1月25日（土） 13:30～15:00
場所： 日本学会館 904 室（〒102 千代田区九段南 4-8-24）
JR中央線・都営新宿線・営団有楽町線市ヶ谷駅下車 徒歩2分
私学会館の斜め向かい側
講演者： 中村 俊夫（名古屋大学年代測定センター）
講演題名： 「加速器質量分析法による放射性炭素年代測定の最近の動向」

参加無料・事前申し込み等は必要ありません。当日直接会場においで下さい。
問い合わせ先：東京都立大学理学部 山崎晴雄（TEL 0426-77-2592）

■ 日本第四紀学会 1997年大会 第1報

日時： 1997年8月4日（月） プレ巡検
5日（火） 一般発表・評議員会
6日（水） 一般発表・総会・懇親会
7日（木） シンポジウム
8日（金）～10日（日） ポスト巡検

会場：北海道大学 学術交流会館

巡検：プレ巡検（日帰り：石狩低地帯の考古学とテフラ、および第四紀地質）と、ポスト巡検（1泊2日～2泊3日：1. 大雪山, 2. 十勝平野, 3. 火山とテフラ, 4. 白滝遺跡とオホーツク文化, 5. 風成塵）を予定しています。

シンポジウム：オーガナイザー 小泉 格・大場忠道・小野有五

「東アジアから西太平洋へ：陸・海・ヒトのテレコネクション」

<主旨>

我々は「第四紀」に生きているという意味で「人類の時代」を実感している。この時代は、地質学的過去と現在の接点であると共に自然科学と人文・社会科学との接点でもあって、総合的な自然史学を学ぶことのできる最高の分野である。第四紀は、また、気候変動が顕著な時代であった。とくに、最近の60万年間における氷期・間氷期の繰り返しによる氷河量・海水準・温度・大気中のCO₂濃度・動植物地理・海洋と大気循環の周期的変化は、地球環境の変化がすべてつながりあっていることを明確に示し、この地球システムの変化を明らかにすることが第四紀学の目的であることを示唆している。

国際地球圏生物圏共同研究計画（IGBP）のなかのPAGES（Past Global Changes）では、1994年以PEP（Pole-Equator-Pole）とIMAGES（International Marine Global Change Study）計画が立ち上げられ、現在、進行中である。PEP計画は、地球を3つのランセクトに区分し、それぞれのランセクトにおいて、過古25万年、および過去2000年の古環境の変化を、それぞれ100～1000年オーダー、1～10年オーダーの高精度で復元しようとするものであり、IMAGES計画は古環境研究にとって重要な海域から大口径コアを採取し、学際的国際共同研究を実施しようとするものである。日本は、シベリアから東アジアを経てオセアニアに至るPEP IIのランセクトの中心に位置するだけでなく、北西太平洋に面し、中国と並んで、最も研究者が多いことから、これらの計画の推進に大きな役割を果たすことが期待されている。

PEP IIおよびIMAGES計画の目的は、単に一地域の古環境復元ではない。一地域の古環境変化が、他地域や全地球的な古環境変化とどのように結びついているかを明らかにすることが、主な研究課題である。

PEPIIのトランセクトの最も重要なテーマは、第四紀における東アジアのモンスーンの変動である。中国におけるレスの研究から、モンスーン変動は、レス-古土壌のシークエンスの変化によって、最も良くとらえられることが明らかになっている。しかし、(1)モンスーン変動は、海洋の大循環や海面変化・海水温の変化とどのようにリンクしているか？(2)モンスーン変動と偏西風ジェットの変動とはどのようにリンクしているか？(3)冬のモンスーンや偏西風ジェットの強化による風成ダストの海洋への供給は、グローバルな炭素循環とどのようにリンクしているか？(4)モンスーン変動と氷床の変動はどのようにリンクしているか？といった問題の研究は、ようやく端緒についたところである。

日本列島とその周辺の海域は、東アジアのモンスーンの風下側に位置し、モンスーン変動と海洋の環境変化を明らかにする上で世界で最も恵まれた場所であり、これはIMAGES研究計画の重要なターゲットの一つにもなっている。また、日本列島周辺の縁海は、東南アジアと共に、海面運動によってその海岸線や古環境が最も大きく変化した場所である。日本列島へのヒトの移住という問題が、これら縁海の古環境変化と密接にリンクしていることは疑いの余地はない。

このような背景にあって、本シンポジウムでは、アジア大陸東部から日本列島をへて西太平洋にいたるトランセクトを設定し、最新のデータを提供すると共に、様々な問題提起を行うことを目的とした。

シンポジウムは次の三つの部分からなる。

(1)「ヒトの移動と陸と海」

メインテーマ：陸域の古環境変化や、海面変化による海岸線の変化は、東アジアにおけるヒトの移動とどのようにリンクしているか？

(2)「モンスーン変動」

メインテーマ：モンスーン変動・氷床の変化・海面変化はどのようにリンクしているか？

(3)「陸と海のテレコネクション」

メインテーマ：陸域-湖底-海底の古環境変化はどうリンクするか？

以上のようなテーマにそって、発表者をつのります。1発表25分を予定しています。また、発表者が決まり次第、その発表に対し、異なる分野の研究者による15～20分のコメントをお願いし、議論をさらに深めたいと考えていますので、申し込みにあたって、発表者は、タイトルだけでなく、具体的な発表内容についてA4一枚程度にまとめてお知らせ下さい。時間的な制約から、発表者の数は9人となります。申し込みをいただいた時点で、オーガナイザーが検討し、調整いたしますので、予めご了承下さい。

申し込み締め切り：1997年1月末日

宛先：北大地球環境科学研究科：大場忠道

■筑波大学理学部地球惑星科学科の教官の公募

1. 職名・人数： 教授 1名。
2. 専門分野： 地質学・古生物学。
3. 担当科目： 学類・研究科における地質学・古生物学分野の講義・演習等。
4. 応募資格： 当該分野の学位(博士)を有し、特定の古生物分類群をもちいた研究・教育を国際的視野から推進してくださる方。
5. 着任時期： 採用決定後できるだけ早い時期、遅くとも平成9年4月1日。
6. 提出書類： (1)履歴書(市販用紙に大学卒以降、写真添付)
(2)教育業績一覧表(年次順)
(3)研究業績一覧表(年次順)
(4)所属学会一覧表
(5)主要論文・著書(コピー可) 5～10編
(6)今後の研究・教育の方針・抱負(2000字程度)
7. 公募期限： 平成8年12月14日(消印有効)。
8. 書類提出先：〒305 つくば市天皇台1-1-1
筑波大学地球科学系 梶原良道 研究科長
郵送により受け付けます。封筒表面に朱字にて教官応募書類在中と記すること。
9. 問合わせ先：〒305 つくば市天皇台1-1-1
筑波大学地球科学系 野田浩司
電話 0298-53-4210

学会からのお知らせ

■ 1997年地球惑星科学関連学会合同大会のご案内

日本第四紀学会は下記のように、来年の3月、名古屋大学で開かれる地球惑星科学関連学会合同大会に参加します。会員は固有セッションと共通セッションへ講演を申込みことができます。

日時：1997年3月25日（火）～3月28日（金）

会場：名古屋大学東山キャンパス（〒464-01 名古屋市千種区不老町）

JR名古屋駅より地下鉄東山線「本山（もとやま）」下車、徒歩15分、又は市バス5分、徒歩5分

日本第四紀学会固有セッション（1会場半日）

合同大会期間中に日本第四紀学会が独自の企画で開くセッションです。今回は第四紀学の諸特徴を他の参加者に広く理解していただくために、シンポジウム「地球規模変動に対する熱帯海岸環境の応答と対応戦略（仮題）」（オーガナイザー：海津正倫・茅根 創）と一般研究発表を開催いたします。

一般研究発表については昨年度と同様に会員の皆様から講演を公募いたしますが、発表会場の都合で今回は口頭発表ではなく、全てポスターセッションとなります。今回は筆頭者として1人2件までの重複申込が可能です。また、固有セッション会場で1発表につき1～2分のショートサマリーを述べることができます。多くの会員の発表申込をお待ちしております。

一般研究発表ご希望の方は後ページの講演募集案内を参照の上、合同大会共通フォーマットの講演申込用紙と予稿集原稿（いずれも写真原稿用オリジナルとコピー各1枚ずつ）を下記の申込先に1月7日（火）必着でお送り下さい（プログラム作成までの時間が短いので締切は厳守です。ご注意ください）。それで、講演申込が完了します。

発表日時については予稿集原稿受付後でないことと決まらぬのでご承知おき下さい。講演者には発表の日時が決定次第、個別に通知します。合同大会のプログラムは2月の下旬頃、合同大会事務局より、会員の皆様に直接郵送されます。平成8年度中に住所変更のあった方は、後に示す様式で事務局に連絡して下さい。

固有セッション一般研究発表（ポスターセッションのみ）申込先
〒192-03 八王子市南大沢1-1 東京都立大学理学部地理学教室
山崎晴雄（合同大会 プログラム委員）

日本第四紀学会固有セッションシンポジウム：

地球規模変動に対する熱帯海岸環境の応答と対応戦略（招待講演のみ）

オーガナイザー：海津正倫・茅根 創

要旨：東南アジアなどの熱帯地域には、過去の地球規模変動に伴って形成された広大なデルタ、サンゴ礁、マングローブなど特有な海岸環境が分布する。こうした熱帯域の海岸環境は、爆発的に高まっている人口圧とともに海面変動、気候変動など地球規模変動によって大きな影響を受けることが予測される。これらの地域は開発途上国が多いため、こうした変動に対する脆弱性が大きい。また熱帯域は、地球規模変動の予測において不確実性がもっとも高い。こうした点をふまえて本セッションでは、熱帯海岸における過去と将来の環境変動とこうした変動に対するデルタ、マングローブ、サンゴ礁などの応答をまとめ、人間活動への影響と対応戦略を議論する。

合同大会共通セッション

共通セッションは特定のテーマについて加入学会を問わず講演申込が可能なものです。今回は21の共通セッションが計画されています。[]内はコンビナーです。問い合わせは各セッションの連絡先をお願いします。紙面の都合でタイトル、コンビナー、連絡先のみを掲載します。

共通セッションの講演申込先は合同大会プログラム委員会です。下記へ直接お申し込み下さい。

〒464-01 名古屋市千種区不老町 名古屋大学理学部地球惑星科学教室
加藤 学（合同大会 プログラム委員）

共通セッションタイトル

- C1. 新世紀の宇宙塵研究：課題と機会 [大橋英雄・今柴直也・福岡孝昭・向井 正]
 連絡先：大橋英雄、東京水産大学海洋環境学科 Tel.03-5463-0062、Fax.03-5463-0697
- C2. 太陽系小天体の新しい描像 [渡部潤一・山本哲生・向井 正]
 連絡先：渡部潤一 国立天文台 Tel.0422-34-3644、Fax.0422-34-3810
- C3. あしたから(!?) 使える合成開口レーダ (SAR) [飛田幹男・土井浩一郎・大村 誠・大久保修平]
 連絡先：土井浩一郎 国立極地研究所 Tel.03-3962-4724、Fax.03-3962-4914
- C4. リソスフェアの熱構造と地震・火山活動 [大久保泰邦・山野 誠・嶋本利彦]
 連絡先：大久保泰邦 地質調査所 Tel.0298-54-3548、Fax.0298-52-0281
- C5. 地球惑星科学における画像解析 [中嶋 悟・佐々木 晶・土山 明・山口 靖]
 連絡先：中嶋 悟 東京大学大学院理学系研究科 Tel.03-3812-2111(ex4515)、Fax.03-3815-9490
- C6. 地球内部科学 [松井正典・加藤 工]
 連絡先：松井正典 九州大学理学部地球惑星科学 Tel.092-642-2653、Fax.092-642-2684
- C7. 海半球ネットワークー地球内部への新しい窓ー [深尾良夫・末広 潔・山田功夫・浜野洋三・坪井誠司]
 連絡先：海半球ネットワーク事務局 深尾良夫 東大地震研究所 Tel.03-3812-2111(ex5698) Fax.03-3816-1159
- C8. テクトニクス [長谷部徳子・竹内 章]
 連絡先：竹内章 富山大学理学部 Tel.0764-45-6654、Fax.0764-45-6658
- C9. 九州の構造と地震・火山・テクトニクス [鍵山恒臣・岩崎貴哉・中田正夫]
 連絡先：鍵山恒臣 東大地震研究所 Tel.03-3812-2111(ex5810)、Fax.03-3812-6979
- C10. 地球惑星科学と計算機シミュレーション [田中秀和・渡邊誠一郎・中久喜伴益・大村善治]
 連絡先：田中秀和 東京工業大学理学部地球惑星学科 Tel.03-5734-2243、Fax.03-3727-4662
- C11. 全地球史解説 [伊藤孝士・吉田茂生・瀬野徹三]
 連絡先：伊藤孝士 国立天文台 Tel.0422-34-3602、Fax.0422-34-3840
- C12. 海洋性島弧と大陸地殻の形成・進化過程 [小川勇二郎・藤岡換太郎・有馬真ほか]
 連絡先：有馬 真 横浜国立大学教育学部地学教室 Tel.045-335-1451、Fax.045-333-1536
- C13. 重力 [中井新二・福田洋一]
 連絡先：福田洋一 京都大学大学院理学研究科地球惑星科学専攻 Tel.075-751-3912、Fax.075-711-1374
- C14. 地殻変動 [島田誠一・中尾 茂]
 連絡先：島田誠一 防災科学技術研究所 Tel.0298-51-1611、Fax.0298-54-0629
- C15. GPS [日置幸介・市川隆一]
 連絡先：日置幸介、国立天文台地球回転研究系 Tel.0197-22-7139、Fax.0197-22-7146
- C16. 地殻流体の総合的理解に向けて(1)地殻の変形・破壊における流体の役割 [五十嵐文二・小泉尚嗣・岩森光]
 連絡先：五十嵐文二 東京大学理学部地殻化学実験施設 Tel.03-3812-2111、Fax.03-3816-1784
- C17. 地層処分に関する地球科学的課題 [渡辺邦夫・湯佐泰久・浦辺徹郎]
 連絡先：渡辺邦夫 埼玉大工学部 Tel.048-858-3571、Fax.048-855-1378
- C18. 宇宙物質の構造と進化 [平原靖大・加藤 学・香内晃]
 連絡先：平原靖大、名古屋大学理学部地球惑星科学教室 Tel.052-789-2523、Fax.052-789-3033
- C19. 地震関連電磁放射現象の広帯域観測とその発生機構の考察 [芳野起夫・尾池和夫・長尾年恭]
 連絡先：芳野起夫 福井工業大学電気工学科 Tel/Fax.03-3397-5577
- C20. 放射年代測定の新技術：それによる地球惑星・地球環境科学の急展開と問題点 [中村俊夫・宇都浩三・日高 洋・平田岳史・鈴木和博・田中 剛]
 連絡先：中村俊夫、名古屋大学年代測定資料研究センター Tel.052-789-2578、Fax.052-789-3092
- C21. 地球惑星物質の物理化学 [神崎正美・河村雄行]
 連絡先：神崎正美、岡山大固体地球研究センター Fax.0858-43-3450

シンポジウム

- シンポジウムは以下の8件が行われます。これらの講演は幅広い分野からの招待講演で構成されています。
- 25日午前・陸域・沿岸生態系の地球変化に対する応答 [和田英太郎・斎藤文紀・吉岡嵩仁ほか]
- 25日午後・火星生命存在の可能性：物質科学的、生物学的、惑星科学的側面からのアプローチ [三河内 岳・土山 明・河崎行繁・小林憲正・村江達士・小島秀康]
- 26日午前・南海トラフ沿いの巨大地震と内陸地震：その発生予測と災害軽減に向けて [安藤雅孝・平原和朗・倉本真一]

学会からのお知らせ

- 26日午後・兵庫県南部地震断層深部の研究 [島崎邦彦・竹村恵二・池田隆司・伊藤久男・安藤]
 27日午前・固体地球と液体地球のカップリング・ダイナミクス (4)モデルとデータ同化 [河野芳輝・内藤
 勲夫・橋本 学]
 27日午後・太陽系探査の世界的な流れと日本の果たすべき役割 [中村正人・阿部 豊・佐々木晶]
 28日午前・全地球ダイナミクス—新しい地球観の創成にむけて— [丸山茂徳・石田瑞穂]
 28日午後・島弧深部地球科学の新展開 [小川克郎・新妻信明・山口 靖・榎並正樹]

1997年 地球惑星関連学会 合同大会 様 【宿泊のご案内】

学会開催期間中は、全国高校剣道大会をはじめ、各種イベントや研修などが集中しており、名古屋市は大変予約がこみあっております。大会にご参加の皆様のご便宜をはかるため、交通至便のホテルをご用意いたしました。料金も格安で設定させていただきました。是非とも、お早めにお申し込みをお願い申し上げます。

□ 料金は1泊当たり、室料のみ（食事なし）、税金・サービス料・手数料を含みます。

□ 3月24日（月）～ 28日（金）まで5泊分をご用意しております。

(1) ホテル宿泊料金

郷	NO	ホテル名	シングル料金	ツイン(2人1室)	ご案内
名古屋駅前	①	名古屋都ホテル	12,000	18,000	駅地下街と直結、交通至便。
	②	名鉄グランドホテル	12,500	20,600	名鉄バスターミナルなど交通関係に有利。
	③	駅前モンブランホテル	7,800	————	駅前で交通は便利。安価だが部屋は広い。
	④	ホテルサンルート名古屋	8,500	————	駅前すこし北側
伏見	⑤	名古屋クラウンホテル	8,000	————	安価なタイプ。大浴場有り
	⑥	ホテル チヨダ	7,200	11,000	納屋橋地区。
栄地区	⑦	ライオンズプラザホテル	7,500	————	栄地区で交通至便。料金も妥当。
	⑧	名古屋金谷ホテル	8,000	————	栄地区。安価なタイプ
	⑨	チサンホテル名古屋栄	8,700	————	栄地区。繁華街中心
	⑩	第二ワシントンホテル	6,900	————	窓なし部屋。繁華街
	⑪		8,500	————	窓あり部屋。繁華街
	⑫	ナゴヤプラザホテル	6,300	11,000	地下鉄栄 徒歩7分程度
	⑬	名古屋栄グリーンホテル	7,300	11,000	地下鉄栄 徒歩3分

高校生のスポーツ大会のため廉価のホテルは非常に混んできております
 特にツインタイプが厳しい状況です。

(2) ホテル 案内図 略

(3) お申込み方法

- ① 下記のお申込書に必要事項をご記入のうえ、FAXまたは郵送でお申し込み下さい。
 - ② お申し込みの締切は、平成9年2月20日(木)到着分です。
 - ③ お申込書が到着次第、折り返し、「予約確認書」と「請求書」を送らせて頂きます。
 - ④ 3月11日(火)までに「お振込み」または「現金書留」にてお支払い下さい。
- ※ 受付はお申込順にさせていただきます。ご希望のホテルが満員の場合は、可能な限り同等のクラスのホテルをご案内させていただきますので、あらかじめご了承下さい。

(4) 変更、お取消について。

- ① ご変更・お取消は、FAXまたはお葉書などにてお早めをお願いします。
- ② お取消料金は下記の通りです。(当社到着日基準)

2週間前まで	無料
13日前～3日前	20%
2日前～前日	50%
当日および無連絡	100%

(5) お申込み・ご連絡先

東武トラベル(株)名古屋支店・西日本営業開発部

学会宿泊担当 矢野・加藤
〒450 名古屋市中村区名駅4-8-12
(菱信ビル3階)

☎(052)581-4001(代)
FAX(052)586-4756

----- (切 り 取 り 線) -----

東武トラベル宛 1997年 地球惑星関連学会 合同大会 様
【宿泊申込書】

代表者様名； (フリガナ)	ご所属学会名；
確認書 送付先 〒	お電話 ()
	FAX ()

宿泊者 ご氏名	同室者 ご氏名	部屋 タイプ	宿泊日に○印					ご希望ホテル名(番号)		
			3/24	3/25	3/26	3/27	3/28	第一希望	第二	第三
① ()	② ()	シングル ツイン								
① ()	② ()	シングル ツイン								
① ()	② ()	シングル ツイン								
① ()	② ()	シングル ツイン								

☎(052)581-4001(代)

FAX(052)586-4756

学会からのお知らせ

(原寸コピーしてお使い下さい)

地球惑星科学関連学会1997年合同大会 講演申し込み用紙

講演時刻		講演番号	
講演題目	60字(英文120字)程度。ワープロかタイプで直接打つか、印字された紙を貼る。英語の場合は、文頭と固有名詞などを除き小文字で。		
著者氏名(所属不要)	(漢字表記) (アルファベット表記) 必ず両方に記入して下さい <small>ワープロかタイプで直接打つか印刷された紙を貼る。</small>		

スピーカーの左肩に丸印を付ける。グループ発表の場合はスピーカーを明示する。

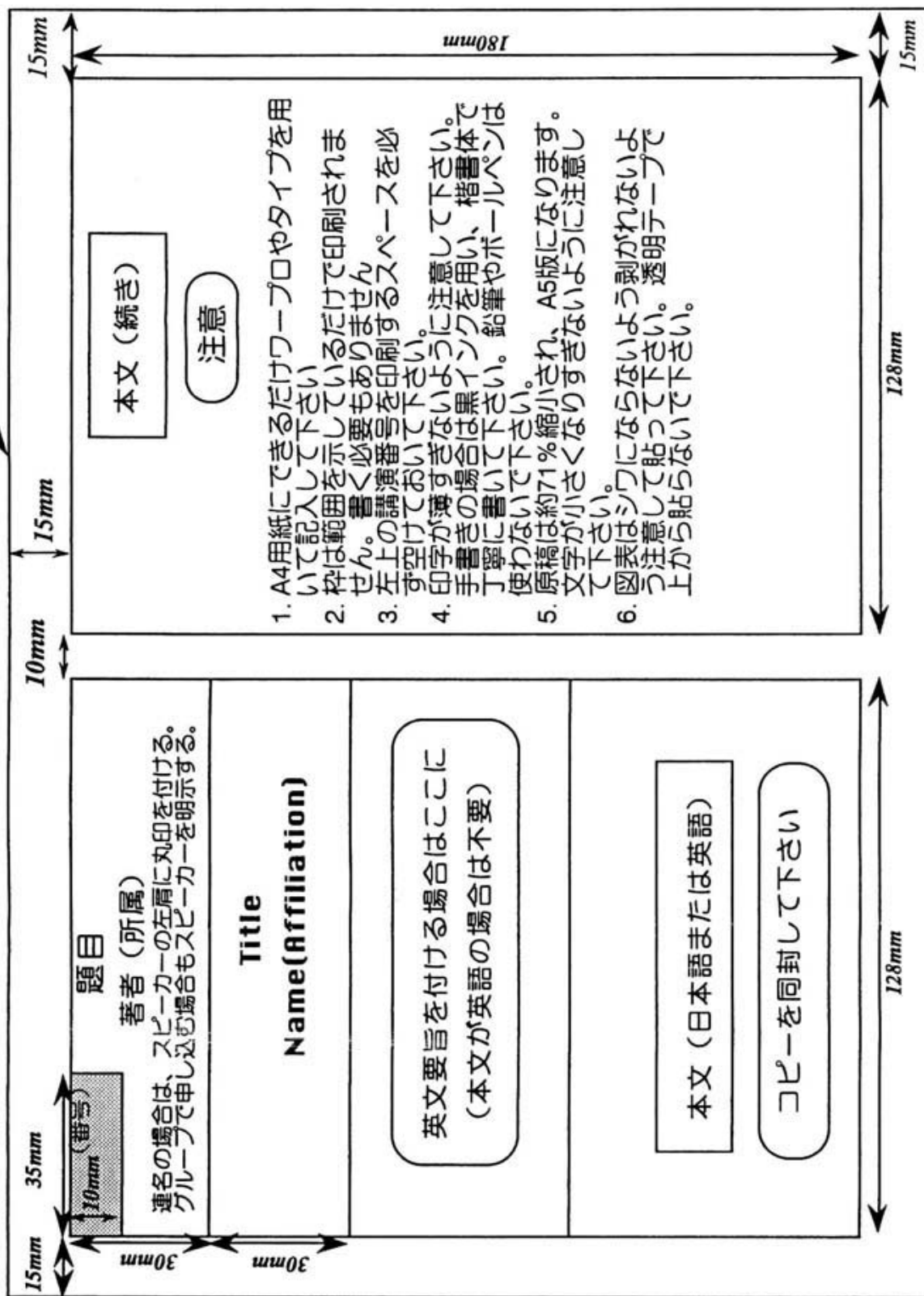
希望の□に✓してください。[]内に希望事項を記入して下さい。プログラム編成の都合によっては、必ずしもご希望に添えないことがあります。

<input type="checkbox"/> 共通セッションを希望 ⇒ セッション名 []
<input type="checkbox"/> 他の共通セッションも申し込む ⇒ セッション名 []
<input type="checkbox"/> 固有セッションを希望 ⇒ <input type="checkbox"/> 地震 <input type="checkbox"/> SGEPS <input type="checkbox"/> 火山 <input type="checkbox"/> 測地 <input type="checkbox"/> 地球化学 <input type="checkbox"/> 惑星 <input type="checkbox"/> 三鉱合同 <input type="checkbox"/> 第四紀 <input type="checkbox"/> 地質 固有セッション内の小区分 []
発表方法 (希望に添えない場合もあります) <input type="checkbox"/> 口頭 <input type="checkbox"/> ポスター <input type="checkbox"/> どちらでも可
講演順についての希望
スライドの希望 ⇒ <input type="checkbox"/> 使用 <input type="checkbox"/> 不使用 (使用を希望しない場合、当日スライドを使えないことがあります)
ビデオなど特殊機材の希望 (具体的に)
申し込み責任者 (1~2月に連絡の取れる方) 氏名
連絡先住所 〒
E-mail FAX 電話 (内線)

この用紙と予稿原稿、およびそれぞれのコピーを同封して下さい

予稿原稿フォーマット

A4用紙の外枠



住所変更の連絡について

合同大会のプログラムは郵送用の共通名簿に基づき印刷所から直接郵送いたします。現在セッション参加11学会の名簿をもとに12月中をめどに郵送用名簿を編集しています。プログラム発送は2月下旬の予定であり、配布先の変更は各自からの連絡により行われます。セッション参加学会の会員でプログラムの配布先が変更になる方は、下記の用紙をコピーして必要事項を書き込み、遅くとも12月16日までに下記の連絡先あてに送付してください。なお、e-mailによる住所変更の連絡も受け付けます。いずれの場合も、受領通知は致しませんので、ご了承ください。

新配布先

名前 (アルファベット)
名前 (漢字)
住所 〒
Tel: Fax:

連絡先：〒152 目黒区大岡山 2-12-1 東京工業大学 理学部 地球惑星科学科
本蔵義守 Fax: 03-5499-4093 e-mail: yhonkura@geo.titech.ac.jp

■ 第四紀学会ホームページ作成について

日本第四紀学会では、先の評議員会および総会で審議いたしましたように、広報検討委員会を設置して、第四紀学会の情報を広く会員外にも伝えより多くの新入会員をえるために、ホームページの作成を準備しております。本学会の概要、研究大会や諸活動の案内、入会案内を掲載する予定です。そのほか、第四紀学の研究・教育の現状を情報交換する場としてもホームページの活用が期待されています。

そこで第四紀学の研究機関や会員の中ですでにホームページをお持ちの方は、下記の第四紀通信事務局までお知らせ下さい。またホームページの内容に関してのご意見もお待ちしております。

■ 第四紀通信事務局から

前号の会員消息の会員移動に誤りがありました。

また第四紀路頭集のFAXの宛先が「国立民俗博物館」となりましたが、
「国立歴史民俗博物館」の誤りです。
謹んで訂正させていただきます。

第四紀通信事務局：九州大学大学院比較社会文化研究科 小池 裕子
TEL & FAX 092-726-4847 E-mail koikegsc@mbox.nc.kyushu-u.ac.jp

■ 国際シンポジウムのお知らせ

北海道大学低温科学研究所では、オホーツク及びその周辺の総合的な研究の促進の為に、下記の国際シンポジウムを開催します。

テーマ："Climate system and eco-system in and around the sea of Okhotsk"

日時：1996年11月25-27日

場所：北海道大学低温科学研究所講義室

プログラム：北海道大学のホームページ、低温研の項を御参照下さい。

<http://www.hokudai.ac.jp/>

問い合わせ：北海道大学低温科学研究所 竹内謙介

電話：011-706-5470 Fax:706-7142

E-mail:takeuchi@clim.lowtem.hokudai.ac.jp

■ 火山工学研究会（火山地域の防災）の開催のご案内

（社）土木学会土構造物および基礎委員会火山工学研究小委員会では、総合科学としての「火山工学」の確立を目指して、1992年7月から活動を続けています。この間、研究討論会（1993）、火山工学シンポジウム（1994）、火山工学セミナー in 鹿児島（1994）、火山工学フォーラム（1995）、火山工学セミナー in 長崎（1995）などの活動を通して、火山工学の枠組みを設定し、さらに関連学会との研究交流や土木工学的視点から火山工学を発展させるための研究を継続しています。

本年度の企画として、火山工学に関連する分野について研究会を下記の通り開催することになりました。興味をお持ちの皆様のご参加をお待ちしております。

1. 主催：（社）土木学会（担当：土構造物および基礎委員会火山工学研究小委員会）
2. 日時：平成8（1996）年12月6日（金）13：30～17：00
3. 会場：土木学会土木図書館2階「講堂会議室」
（東京都新宿区四谷1丁目無番地、JR、地下鉄丸の内線・南北線「四谷」駅下車、徒歩3分）
4. 定員：50名（先着順、参加費無料、自由参加）
5. 問い合わせ先：（財）砂防・地すべり技術センター火山防災部技術課長 安養寺信夫
TEL:03-5276-3272/FAX:03-5276-3392/E-mail:anyoji@stc.or.jp
6. 担当事務局：（社）土木学会事務局研究事業課 河西（かさい）
〒160 東京都新宿区四谷1丁目無番地 TEL:03-3355-3559/FAX:03-5379-0125

■ 第6回「基礎研究の振興と科学技術教育」シンポジウムのお知らせ

科学技術者100万人集会 「基礎研究の振興と科学技術教育」シンポジウム

— 21世紀へ向かっての人材育成 —

日時：平成8年12月20日（金）13：00～17：00

会場：野口英世記念会館（Tel 03-3357-0742） 東京都新宿区大京町26番地

主催：社団法人日本工学会／社団法人日本工学教育協会

共催：日本工学アカデミー／科学技術基本政策研究会

協賛：教育関係11学協会／日本工学会加盟91学協会／学術法人法制定運動賛同190学協会

後援：科学技術庁／文部省通商産業省／経済3団体

参加費：2000円

参加申し込み：往復はがきに氏名・勤務先・同住所・同電話番号・所属学協会名を明記した上、返信はがき表に通信先住所と氏名を必ずお書き下さい。

申し込み締め切り：平成8年12月10日（火）必着

研究集会のお知らせ

申込先：社会法人 日本工学会
〒107 東京都港区赤坂 9-6-41 乃木坂ビル 3階
Tel 03-3475-4621 FAX 03-3403-1738

<プログラム>

- 基調後援 「国家目標と科学技術基本計画」—科学技術創造立国を目指して—
科学技術会議議員 大澤 弘之
- 講演 (1) 「科学技術創造立国の初等中等教育」—生きる力と創造への教課の在り方—
日本学術会議会員・科学技術教育研究連絡委員会委員長 坂元 昂
- 報告 「技術資格の国際調整への動き」—WTO,APEC等をめぐる各国事情—
日本工学教育協会専務理事 原田 耕作
- 講演 (2) 「経済大競争時代の産・学協会の在り方」—知識の創造と技術者の育成—
経済団体連合会副会長・経済政策委員長 青井 舎予一
- 講演 (3) 「歴史的転換期に対応した大学改革」—国民のメッセージとしての国費投入に応える
日本工学教育協会会長・東京大学総長 古川 弘之

■ International Symposium on The LATE QUATERNARY in the EASTERN MEDITERRANEAN ANKARA, TURKEY, 1-4 APRIL 1997

organized by INQUA (International Union for Quaternary Research) Holocene Commission
M.T.A. (Mineral Research and Exploration) General Directorate British Institute of Archaeology at Ankara,
Loughborough University, PAGES (Past Global Changes) program of the IGBP

The objective of this Symposium is to discuss recent research on Palaeoenvironmental Change in the Eastern Mediterranean Region since the Last Glacial Maximum, its causes, consequences (for human populations, other biota, etc.) and geographical linkages.

- * presentations by invited keynote speakers, selected oral papers and poster papers, spread over four days
- * a special half-day session of the PAGES PEP III programme (convenor: Dr Francise Gasse, CNRS, Paris)
- * a four day field excursion
- * a social programme for delegates
- * business meetings of the sub-commission and working groups.
- * Palaeoclimatic records and data-model intercomparison
- * Vegetational and faunal histories
- * Human prehistory and environmental change
- * Isotopes, radiometric dating and tephrochronology
- * Palaeoceanography and sea-level changes
- * Geomorphology and soil development
- * Palaeolimnological records
- * Comparison with adjacent regions (e.g. Western Mediterranean).

Registration

September 1 1996: Receipt of provisional registration form.
October 1996: Second circular
December 31 1996: Receipt of Abstracts, Registration fee, Accommodation charges and Field Excursion deposit.

Neil Roberts

Department of Geography, Loughborough University, LE11 3TU, U.K.
Fax ++44 1509 223930; e-mail: C.N.Roberts@lboro.ac.uk

Mustafa Karabiyikoglu

MTA Enstitüsü, Jeoloji Dairesi, 06520 Ankara, Turkey
Fax: ++ 90 312 285 427; e-mail: karabyk@mtabim.mta.gov.tr

■ 第16期第8回第四紀研究連絡委員会議事録（案）

日時：平成8年9月20日（金）13:00-16:00

場所：日本学術会議第5部会議室（6階）

出席者：太田洋子、大場忠道、小池裕子、坂井潤一、坂上寛一、新藤静夫、立石雅昭、野上道夫、松島義章、米倉伸之欠席

1. 前回議事録案はすでに承認した。

2. 報告

(1) 委員長からの報告

1) 第15期からの引継事項であった第四紀研究関連の国際学術研究採択リスト（平成元年度～平成7年度）が「第四紀通信」（3-2）に掲載された。

2) 平成9年度文部省科学研究費補助金に「時限付き分科細目」として「自然史科学」が採択され、審査委員会候補者の推薦が自然史科学連合にあり、日本第四紀学会からの検討に加わった。

3) 地質科学総合研究連絡委員会が提唱していた「地質科学関連学協会連絡協議会」準備会が平成8年7月10日に開催された。

4) INQUA関連として、平成9年度概算要求として分担金の値上げを要求した。

(2) 日本学術会議報告（新藤会員）

1) 地質科学関連学協会連絡協議会に15学会が参加し、世話人に佐藤正（地質学研連委員長）、世話学会として日本地質学会を選出して、シンポジウムの企画などを進めることにした。

2) 日本学術海外の研究連絡委員会の見直し第1常置委員会から提案された背景などについて説明があった。

3) 日本学術会議夏部会が7月2-3日に開催された。

4) 国立計算機科学研究所（仮称）の設立動告案が検討された。

3. 審議

1) IGCP国内委員会主催「第四紀の海岸環境・大陸棚に関する国際シンポジウム」（1997年2月15日、神戸大学滝川会館）の共催依頼を承認した。

2) 社団法人地下水技術協会主催「地盤沈下と気候変動（課題）」シンポジウムの共催を承認した。

3) 第四紀関係教育システムについて

立石委員から北海道大学理学部、高知大学理学部、鹿児島大学理学部などの講義内容に関する資料が配布され、国立大学では第四紀学に関する講義科目は全体として増えていること、私立大学での教育あるいは後継者養成について検討を要すること、こうした教育課程の整備にもかかわらず、第四紀学研究者の高年齢化が急速に進行していること、後継者の養成が進んでいないことなどの問題提起があった。この問題については第16期末までに何らかの提言をまとめることとした。

4) 研究連絡委員会の見直しについて

日本学術会議第1常置委員会からの提言のあった研連の見直し案について、その背景について新藤から説明があり、自由な意見交換をした。その結果、この問題について第四紀研連としての意思表示をすべきであり、改善策などについて具体的な検討を続けることとした。

5) 第四紀環境変動国際シンポジウムについて

日本学術振興会に申請していた平成9年度国際研究集会補助金が採択されたことが報告され、実行委員会プログラムなどの具体案を検討することとした。

■ 第8回幹事会議事録

日時：1996年10月12日（土）13:30～17:00

場所：東京大学理学部地理学教室会議室

出席者：鎮西清高（会長）、米倉伸之（副会長）、坂上寛一、小池裕子、辻誠一郎、山崎晴雄、吉川周作、齊藤享治（以上幹事）、山本麻由子（学会センター）

1. 庶務

(1) 「海洋調査技術学会第8回研究成果発表会」（1996年11月14～15日、海上保安庁水路部大会議室）の協賛学会となることを承諾した。

(2) 1997年4月から文部省学術情報センターに電子図書館を開設し、ネットワークセンターを設置してインターネットを介して学術論文を提供する計画がある。著作権の問題や各学会が経済的打撃（出版物の売り上げ減など）を受けることなどから、日本工学会ではそれらの問題の解決に向けて要望書を学術情報センターに提出している。

(3) 第四紀研究に対する文部省科学研究費学術刊行物補助金の復活に向けて、平成8年度の申請書類の書き方について詳細に検討した。とくに、目的と意義、海外頒布先、引用件数に留意することとした。

(4) 第17期日本学術会議会員の選出に係る学術研究団体の登録申請の結果について、会員推薦管理会からの通知（1996年9月10日付）があった。日本第四紀学会は、学術会議会員候補者を推薦できる関連研究連絡委員会の地質科学総合研究連絡委員会に登録され、会員候補者1名を選定し、推薦人2名を指名することになった。会員候補者1名と推薦人2名の選出については、先の評議員会および総会での事業計画で承認されている、評議員の投票によることとした。

(5) 評議員会の開催時間は、従来2時間程度であったが、議論するのに十分な時間がないという意見をふまえ、3時間程度にすることとした。

(6) 幹事が交替する年度の評議員会・総会の事業報告・計画について、新期の幹事が説明することになっているが、詳しい経過が新期の幹事では分からない場合もあるので、前期の幹事も出席することが望ましく、評議員会ではオブザーバーとしての出席するかどうか、評議員会に諮ることとした。

2. 会計

(1) 会計収支について、現在とくに問題はない。

(2) 第四紀露頭集は、現在1200部販売され、売上状況は順調である。

3. 編集

(1) 35巻4号（7編掲載）が印刷中で、5号は受理論文が4編である。

(2) 投稿論文が少なく、編集状況は、依然として厳しい。大会時の一般発表者に、投稿するようによびかけている。研究委員会には原稿依頼した。

(3) 編集委員会では、文字や図表が大きくなり読みやすくなることから、第四紀研究のA4判化を36巻1号

（1997年）から始めたい旨、報告があった。種々議論の結果、執筆要領の変更を周知させる時間が必要なことなどから、37巻1号（1998年）からのA4判化を、評議員会・総会に諮ることとした。

学会報告

4. 行事

(1) 地球惑星科学関連学会合同プログラム委員会が、9月20日、名古屋大学理学部で開催された。使用できる教室が少ないため、1コマ(半日)の時間配分となった。この1コマは、シンポジウム「仮題：地球規模変動に対する熱帯海岸環境の応答と対応戦略」(オーガナイザー：海津正倫・茅根 創)にあて、一般研究発表はすべてポスターセッションとする。開催日は、来年1月16日のプログラム委員会で決定される。

(2) 1997年度大会の一般発表については、口頭発表の持ち時間を増やすために、ポスターセッションの時間枠を設けるなどして、ポスターセッションの発表が多くなるよう工夫する。

5. 企画

(1) 第四紀露頭集は、現時点で1200部販売済みである。

(2) 第四紀露頭集の奥付にある学会センターの連絡先が03-3814-5801(正しくは03-5814-5801)となっている。判明した以降の配本時には訂正しているが、その他の訂正も含めた正誤表を大会時等に配布する。

6. 会報

(1) 第四紀通信の3巻5号を印刷配布中である。

(2) 文部省学術情報センターの第四紀学会のホームページの開設にあたり、その内容について広報検討委員会(仮称：会報・庶務・行事・企画幹事など)で検討することとした。

7. 第四紀研連

「アジア西太平洋地域における第四紀環境変動に関する国際シンポジウム」(平成9年10月予定)について、日本学術振興会国際研究集会補助金の申請が採択された。

日本第四紀学会 40周年特別企画

『第四紀露頭集—日本のテフラ』 予約販売中

日本列島の自然を重要露頭から垣間みる絶好の集成。テフラ（火山灰）を含む露頭を中心に日本列島の274カ所の露頭を紹介。1カ所が1～2ページにコンパクトにまとめられ、巡検の手引きとして必携。

◆A4版、総368ページ

◆定価3500円。ただし今年末までは予約割引 2500円。

ページ見本

青森県二ノ倉ダム周辺の十和田八戸・大不動火砕流堆積物
町田 洋

地名：青森県新郷村二ノ倉ダム 緯度・経度：A: N40°25'9" E141°33'33" B: N40°25'34" E141°34'39"
標高：300～340m 露頭種別・現況：道路の崖、護岸で見えない 堆積物の種別と年代：火砕流堆積物、降下軽石、12ka、35ka 記載時期：1980年 キーワード：十和田大不動テフラ、十和田八戸テフラ、二ノ倉テフラ群、十和田南部テフラ、十和田中部テフラ、十和田bテフラ、十和田aテフラ、十和田カルデラ、二ノ倉ダム

十和田カルデラの形成に関わったと考えられるのは、十和田八戸テフラ(To-H)と大不動テフラ(To-O)である。これらとともに同規模(体積約50km³)の大型テフラで、降下軽石を伴う火砕流堆積物からなる。この付近の火砕流台地はこれらの複合で形成されている。また十和田カルデラはこれら以外にも多数の大型テフラを噴出した。本露頭では、上位に載るTo-Hも下位のTo-Oも谷を厚く埋め台地をつくる火砕流堆積物の表下に、先駆した降下軽石層(厚さそれぞれ250cm、55cm)が見られる(図2)。これらの降下軽石は十和田テフラ群の模式地である八戸北方の台地(高館など)では、八戸軽石(BP)とビスケット1(BP1)と呼ばれたテフラにあたる。HPは火山灰、火山灰石に富むテフラで(早川, 1983)、BPも下部は軽石層だが、上部は降下火山灰層となる。To-HとTo-Oとは岩質的には似ているが、To-Oの方がより延長質であること、To-HにはTo-Oにみられない角閃石斑晶を含むことで識別できる。なおTo-Oにはパブル型火山ガラスが少量含まれる。

To-Hは亜寒帯性針葉樹林を推定破壊したことが、この付近の火砕流堆積物中に多量の炭化材がみられることから明らかである。その材の従来の放射性炭素年代は10.4～14kaと分散しているが、最近の加速器質量分析計による測定では、12.65kaと求められ、かつ秋から春までの間に噴火が起きたことが分かった(寺田ほか, 1994)。一方、三陸沖(宮古の東300km)のビストンコアKH77-1-6のコア中には、To-Oのco-ignimbrite ashと同定されるテフラが、支筋第1テフラと同定されるものの72cm上位にある(青木, 1996)。また八戸付近では、BP1とBP2との間の火山灰土中にATと同定された火山ガラスがある。したがって、To-OはATとSp1a-1に挟まれる層(後者に近い)にある。このテフラの従来の放射性炭素年代は、20kaから33kaと分散し決定し難いが町田・新井, 1992)、多分より古い値に近いと思われる。

なおTo-Hの堆積面上には、更新世末期から平安時代までのテフラ層が載っている(図3)。それらうち、最下部のテフラは他のテフラと異なり、1回の噴火でたらされたものではなく、多数のスコリア・火山灰群(To-N)からなる。これは十和田カルデラ中道火口西南部にある小型の五色岩成層火山体形成された時に噴出したものとみられる。噴出時代は10～13ka、縄文早期文化層に覆われる。この上には土壌を挟んで、十和田南部テフラ(To-Nb)、十和田中部テフラ(To-Cu)、十和田bテフラ(To-b)、十和田aテフラ(To-a)の順に重なっている。To-Nbは縄文早期、To-Cuは縄文前期の指標テフラで、後者の分布はTo-aに似て東北地方一帯に広い。

文献：青木(1996)、早川(1983)、Hayakawa(1985)、町田・新井(1992)、寺田ほか(1994)

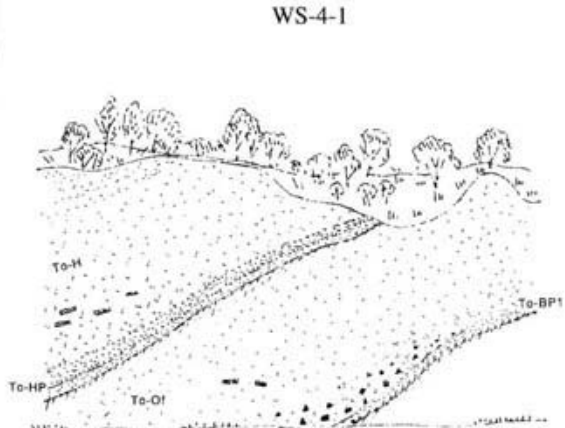
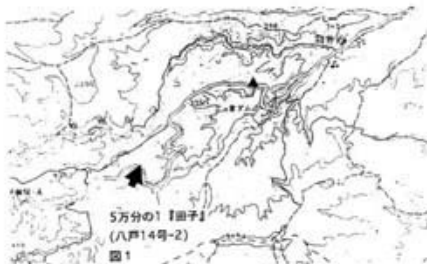


図2 2枚の大型十和田テフラ



図3 ▲印地点の露頭写真。(Hayakawa, 1985 所載)

予約申込書

国立歴史民俗博物館 辻 誠一郎 行
〒285 佐倉市城内町117 TEL 043-486-4240 FAX 043-486-4299

日本第四紀学会 40周年特別企画
『第四紀露頭集—日本のテフラ』を _____ 部 予約申し込みます

お名前
送付先

TEL

FAX